

## 2017 N-ONE OWNER'S CUP Rd.4

2017/4/22

鈴鹿サーキット（三重県）

ML ヌヴォラーリ ET N-ONE

コンディション ドライ

### <レースプレビュー>

2017年のN-ONE OWNER'S CUPもついに今年初の全日本戦を迎えます。舞台は鈴鹿サーキットという事もありエントリー台数は50台。2台が予選落ちという過去最高台数でのレースとなります。

前戦のもてぎ終了後に127号車のリアブレーキからオイル漏れが見つかり、片側はほとんど機能していないことが発覚しました。前後ともにブレーキのオーバーホールを行い、万全の状態ですべて鈴鹿入りしました。

大会前日に設けられた占有走行は、1本目は雨がぱらつく中で、2本目は気温がさほど上がらないものの日差しは強く路面温度が高い状態で行われました。

昨年、4月の鈴鹿を走ったマシンからは足廻りが一新されており、新しくセットを出すためテストメニューをいくつか考えて走りました。

1本目は昨年使用した浅溝タイヤの組み合わせで走行し、ブレーキの調整、減衰力の調整をメインに行いました。

2本目は本番セットをすべて導入し、決勝のロングランを見据えて内圧のセット出しをメインに走りました。また、この時は鈴鹿を得意とする西地域のドライバーの集団で走行するようにし、苦手意識のあるS字の走行ラインを盗むように考えて周回を重ねました。

1本目はトップからコンマ3秒落ちの3番手、2本目はコンマ1秒落ちの3番手、総合結果では全体の4番手。トップからコンマ3秒の中に上位8台がひしめき合っているため選次第で誰がポールを獲ってもおかしくない非常にハイレベルな戦いが予想されます。



**NUVOLARI**



**Winmax**

<予選> **4位** Time : 3'06.523 **コースレコード記録**

予選開始は9時30分過ぎとこれまでのレースに比べて比較的暖かいコンディションで行われた。

50台が一斉にコースインするため場所取りを考え2分ほど遅れてコースインをする。タイミングよく前車とストレート1つ分開けることに成功し、アタックラップへと入った。苦手としているセクター1・2ではトップからコンマ1秒以内で抑え、セクター3では全体ベストを記録。セクター4の結果次第で十分巻き返しができる状態であったものの、スロー走行車両に引っかかってしまいコンマ3~4秒ほどロスしてしまう。

この時点で全体3番手、一度ピットへ戻り内圧を調整後上位陣の動きを待つことにした。残り8分を切ったところで#36阿久津選手がトップタイムを記録し4番手へ。タイヤ温存も考えたが3番手とのタイム差はコンマ1秒以内という事もあり、2度目のアタックを敢行。しかし、セクター2・3で思ったよりもタイムが伸びずタイム更新は叶わず4番手で予選を終えた。

<決勝> **3位** Best Time : 3'07.287

15時を過ぎ冷たい風が強く吹く中、予選を通過した48台による6週の決勝レースがスタートした。

抜群のスタートダッシュを決め、1コーナーで#74小野選手を抜き3番手へと浮上。トップ3台の集団が形成されたが、思っていたよりもトップ#36阿久津選手のペースが上がらない。徐々に4番手以降の集団が追いついてきたところで、ヘヤピン入り口で前を走る#390坂井選手が痛恨のミス。失速したタイミングでインに飛び込んだが、さらにイン側に後方の#551藤井選手がレイトブレーキングで飛び込んでくる。避けることは出来ず接触し、左側のリアバンパーが外れてしまう。

このアクシデントにより4番手へと後退するが次の周に同じくヘヤピンコーナーで並ぶと、続くスプーンコーナーで再び前に出ることに成功する。

接触の影響でペースの上がないまま4位以下の集団を3周にわたり抑え、苦しくも3位でフィニッシュ。2戦連続の表彰台獲得となった。



**NUVOLARI**

Super Endurance Racing Car  
**MIDLAND**  
L.M. SPORTS

**Winmax**

## <レースレビュー>

前日の練習走行時点で上位で戦える自信はあったものの、頭一つ抜けられていない事とセクター1のタイムが伸び悩んでいることから予選で6番手以内には居たいと考えていました。想定よりもタイムは出せていませんでしたが、4番手でセカンドローを獲得できたことが今回表彰台を獲得できた大きな要因だと思っています。

決勝前、表彰台争いに絡むためにはスタートでポジションを上げておく必要があると思い、ひたすらイメージトレーニングを繰り返していました。また、スタート時の回転数を普段よりも500回転ほど下げることによってCVT変速時のおつりをより少なくすることが出来ると判断し試してみる事にしました。

この2つがうまく効いてこれまでにない絶妙なスタートを切ることが出来ました。これは今後も練習を重ねて実戦で毎回出来るようにしたいと思います。

今回のレースは私自身が熱くなりすぎてしまいました。接触が引き金ではあったものの、スタートばかり考えていてレースの構成をしっかりとイメージできていなかったことが最大の原因だと思っています。応援して頂いている方々に恥ずかしくないよう今一度身の振り方から考えるようにしていきます。

熱くなりながら、苦しみながらも表彰台に登ることができ、現時点でランキング4位とシリーズとしては好発進が出来ました。チームメイトと連続で表彰台に上がったことは非常に嬉しいですし、チームとしてもいい流れが来ていると感じています。

最後になりますがレースを全面的に支えてくれた家族に感謝するとともに、サポートしてくださったヌヴォラーリの皆さまをはじめ、Racing Garage K 中本様、MIDLAND様、宮本商会 宮本様、winmax様、E-TECH様、本当にありがとうございました。

次戦参戦予定は7月に十勝スピードウェイで行われる第10戦になります。初のコースで今までにない遠征距離とあって不安要素が多いですが、この3か月間の間にしっかりと準備を行っていきます。応援のほどよろしく願いいたします。

